



Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 52

R1.12.26

今月のキーワード

小・中学校英語研修

しもつけ未来学習実践

今年も大変お世話になりました。1月から、また新たな気持ちでスタートが切れるよう、この時期、子どもたちの姿をもとに、先生方自身の振り返りなどをお願いします。

小・中学校英語研修及び南河内中学校区小中一貫の日（南河内中学校）



12月16日（月）、小・中学校英語研修及び南河内中学校区小中一貫の日を南河内中学校にて開催し、工藤由樹先生と Dorothy 先生による授業を提供していただきました。約80名の参観者の中、生徒たちは「友達についてたくさん情報を聞き出し、別の友達に伝えよう」という学習活動に、一生懸命取り組みました。また、研究協議後には東京家政大学の太田洋先生による指導及び講話をいただきました。



1年生の授業の様子



講話の様子



研究協議の様子

南河内中学校区小中一貫の日に参加の先生方は、「コミュニケーション能力の育成の観点から、各部会に関わる小・中をつなぐ指導の在り方」というテーマで研究協議を行いました。

英語の授業における生徒の姿をもとに、様々な視点から話し合いができたように思います。

※南河内中学校区の小中一貫実践研究テーマ（英語）は「主体的に表現し、伝え合う児童・生徒の育成」です。

<振り返り用紙から抜粋>

- ・卒業生の頑張っている姿を見ることができて安心した。小学校で学んだ表現を中学校でも学んでいることがよく分かった。太田先生の講話からも、「学び方をつなぐ」がキーワードになる。
- ・どの教科でも共通する「目的意識を持たせること」の大切さを改めて感じた。中学校では、教えなければならないことがたくさんあり、つい形を教える授業になってしまうことに自分自身も気付いた。何かが分かることではなく、何かができるようにするための知識を身に付けさせられるよう、授業を工夫したい。
- ・コミュニケーション能力の育成を、様々な教育活動の中で考えてみた。保健室などでのやりとりから、自分の症状をうまく伝えられない生徒に対する指導も、小中一貫につながると感じた。
- ・小学校での外国語活動が生かされていると感じた。外国語だけでなく国語の話す・聞く学習がつながっていると思うので、低学年からのコミュニケーションの基礎作りをしてしっかり指導していく必要を痛感した。
- ・中学校1年生でも、先生の使う日本語は少なく、殆ど英語で授業が行われていることが分かった。





しもつけ未来学習 授業実践より（小学校）

●細谷小 小林幸佳先生の授業より（1年生）

<めあて>英語で自己紹介をしよう

<授業の流れ>

- ① あいさつ・Na Na Na song →② Small Talk →③ めあての確認 →④ 単語の確認 →
 ⑤ 自分の好きな動物や食べ物カードを ALT や担任の先生からもらう活動 →⑥ グループで伝え合う活動・発表 →⑦ 振り返り



③めあての確認

動物・食べ物の単語は既に学習した単語ですが、本時のねらいを変えることで、活動の幅が広がりました。



②Small Talk

⑤カードをもらう活動

自分の好きな動物や食べ物を伝え、先生にカードをもらいます。カードはしもつけ未来学習テキスト(P3)に貼り、⑥の自己紹介の際に使います。



⑥伝え合う活動

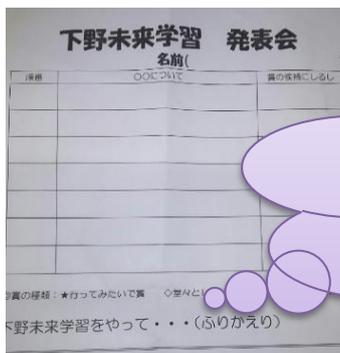


小学校1, 2年生の年間指導計画及び指導案をリニューアルしています。1月下旬に各学校へ送付しますので、御活用ください。

●国分寺東小 渡辺知世先生の授業より（6年生）



しもつけ未来学習の一環として、「下野市のよさを英語で伝えよう」というテーマのもと、発表会をクラスで実施しました。グループで作成したパンフレットをもとに、ジェスチャーなど付けながら、自分達が伝えたい内容を生き生きと発表していました。どのグループも、聞き手を意識した素晴らしい発表でした。



先生のひと工夫 「行ってみたいで賞」などの賞を設け投票を行うことを事前に子どもに伝え、発表会を行ったこと。
 →話し手・聞き手の目的が明確になります。聞き手が「行ってみたい!」と思うような発表を、話し手は心掛けます。結果的に、相手に印象深く伝わるように、声の大きさや身振り手振りを工夫します。

